

大阪大学と医療人文学の未来

Prolegomena to Medical Humanities in University of Osaka



池田光穂,世直し研究会(2022年2月21日),大阪大学医療人文学研究会 (3月11日)

全体の大まかな流れ

- 澤瀉^{ひさ ゆき}久敬先生のはなし
- 中川米造先生のはなし
- 池田光穂のはなし
- 阪大医療人文学の未来

澤瀉^{ひさ ゆき}久敬先生と医学概論

- ・ 1935-36年に大阪帝大の生理学者の久保秀雄と澤瀉久敬は留学先のパリで出会い意気投合する。
- ・ ポアンカレやベルグソンを研究していた澤瀉は、久保との会話の中で医学哲学(教育)の重要を説く
- ・ 日本初の医学の哲学の授業は1941年大阪帝大の久保の医学概論の中で開講される。



中川米造先生と医学概論

- ・ 医学概論は久保秀雄の属する生理学教室の1941年授業からはじまる。この時、大阪帝国大学医学部新カリキュラム「国家国防医学(後述)」が提案される。
- ・ 後に久保と澤瀉は空襲後の大阪市内を医学部の屋上から眺めて、この戦争は必ず終わる。「戦後」に次の若い世代に必要なのは「医学の哲学」であることを確信する。
- ・ 1954年澤瀉は阪大文学部の教授に就任するために、それまで私淑していた中川米造が講師として生理学教室に就任する。





中川米造先生と社会医学

- ・久保秀雄の属する生理学第一教室に1954年中川米造が専任講師として澤瀉の後を「継いで」就任する。
- ・神経学の理論的問題 (1955);形態学と機能論の論理 (1956);病者論と医師論 (1957);社会医学の基礎論的問題 (1958);健康の科学としての医学理論 (1959);理論生物学 (1960);医学思想史 (1961)
- ・1964年東パキスタン、1966年ケニア・ウガンダへの訪問調査。
- ・1958年丸山博・衛生学教室教授に就任。1966年医学概論のポストは衛生学教室に移籍。中川は1969年暮れの森永ヒ素ミルク裁判闘争支援のために急速接近する。

丸山博と中川米造



- ・厚生省大臣官房統計調査部計析課の技官であった丸山博は1958年に衛生学教室の教授に就任する。1962年から授業で丸山は森永ヒ素ミルクをとりあげるようになる。
- ・中川は1965年に助教授に就任。丸山の影響でそれまで思弁的な医学哲学に埋没気味であったものが社会医学的色彩が強くなる (59年ガルドストンの邦訳)。ヒ素ミルク事件へのコミットは1969年以降。
- ・丸山とのタッグで重要なのは『日本科学技術史体系・医学』の編集。社会に埋め込まれた医学という発想が明確になる。

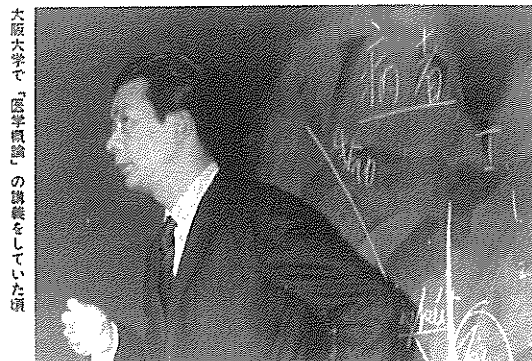
メディカル・ヒューマニティーズ元年期：1980-1985

- ・中川米造『医療的行為の論理』1980において、医師になる過程は、科学的知識の習得ではなく、試行錯誤を繰り返しながら、ある一定の範囲の治療法 (=これが言葉の正しい意味での専門医) に確信をもつ方法しかないと呼破。その過程を、自分の復員船時代とボアズの民族誌における治療師ケサリード(ジョージ・ハント)の事例にもとめる。
- ・1985年に蒼穹社の野島さんが『メディカル・ヒューマニティ』を創刊する。



復員船で医療助手をしていた頃 (大正二年)

ダンディーな教授



大阪大学で『医学概論』の講義をしていた頃



『社会医学の論理』の編纂を出版した頃

そして医療人類学者としての私

医療人類学 Vol.0 No.0 1988.7.1

- 1956 6月16日大阪北區信病院で生まれる。
- 1959 (3歳) この頃、小児結核に罹患
- 1978 鹿児島大学理学部学生時代：宮崎県日南市の京都大学薬長研究所附属観察施設(中島)でニホンザルの個体別調査を開始する。メンターは鹿児島大学理学部の結核好子教授と宮崎大学教育学部岩本俊孝講師
- 1980 鹿児島大学理学部生物学科卒業。大阪大学大学院医学研究科医科学修士課程に入学。同年夏から1986年春にかけて大阪大学たんばく質研究所代謝部門にてラットの視交叉上核の補酵素の代謝の可視化に関する光学的分析手法について研究する。
- 1981 年頭たんばく質研究所から中之島にある中川米造研究室の門をたく。
- 1982 大阪大学大学院医学研究科医科学修士課程修了。修士論文「民間医療の医療人類学的研究—都市における信託治療行動の事例」は前年から開始した日蓮宗治療儀礼に関する社会調査をもとにしたもの。同年博士課程(社会医学専攻)に入学
- 1984 3月にホンジュラス共産圏にJOCV派遣(同年4月より休学)
- 1989 大阪大学大学院医学研究科博士課程社会医学専攻を単位取得退学。日本学術振興会特別研究員(DC)として国立民族学博物館外来研究員として勤務を始める。メンターは吉田集彦教授
- 1991 4月民間のNGO医療文化研究センター主任研究員(センター長：中川米造大阪大学名誉教授)を名乗る。「文化現象としての医療」編集プロジェクトをはじめ。
- 1992 東日本学園大学教養部助教授として就任
- 1994 熊本大学文学部地域科学文化人類学講座助教授。2003年10月熊本大学文学部地域科学文化人類学講座教授
- 2005 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)・臨床部門・教授
- 2016 大阪大学COデザインセンター・社会イノベーション部門教授
- 2020 4月大阪大学COデザインセンター長

医療人類学

Vol.0 No.0
1988.7.1発行
医療人類学研究会

中川米造

医療人類学とは、
「文化現象としての医療」編集プロジェクトをはじめ、
「成し遂げられた」(テテレストイ) (ヨハネ福音書 19:30)

私の医療人類学へのささやかな貢献

疾病文明圏	今日のパンデミックな病気の流行の前は、エビデミックな文明の圏内での病気の流行と集団免疫の形成でした。ウィリアム・マクニールの疾病プールとしての文明圏内の病いという疾病環境とそれに対する文化の側の対応が多元的医療体系を形づくという歴史モデルを提示した。
病いと疾病	病い(illness)は患者とその家族が経験する病気 (sickness) の一部であり、疾病(disease)は近代医療者の側の病気の認識の一部である従前の理解を、僕は「認識論的スペクトラム」をウィトゲンシュタインの家族的類似性の概念を通して再解釈することができた。
多様に病み 単純に治る	どのような医学システムの中でも、人は多様な社会的かつ個人的背景を持ちながら病気に罹り、治療法を試行錯誤しながら選択していくうえで情報論的な縮減を経て、治る/治らない(死ぬ)という単純な判別式で病気の物語を理解することができることを明らかにした。

お気に入りの箴言の3つの異なった表現

- 「この世に不正があるかぎり、おまえたちは立ち上がって闘わねばならない。迫害されるものを守らねばならない」——ティル・オイゲンシュビエールの妻が息子たちに語ったことば
 - 「この世の弱きものが倒れるならば、破滅が傲慢な者を打ち据えるだろう」レイナルド・アレナス『めくるめく世界』
 - イバン・イリイチは次のような趣旨の発言をユダヤの言い伝を捩っていう；「犠牲をはらいながら世界の破滅に抵抗する人びとがいる。そういう人びとによって世界は支えられている。だが、彼(女)たちは、そのことを知らない。しかし、そのような人たちが倒れる時、世界もまた崩壊するのだ。これは12人の賢人が世界の12の支柱を支えるという逸話からきているという。賢人とは名も無き人びとのことだともいう。
後二者の因果関係の説明を転倒すればこんな表現も可能だ→「君よ、君の住むこの世を滅びさせたくなければ君の隣にいる弱きものを助けよ」
- 「成し遂げられた」(テテレストイ) (ヨハネ福音書 19:30)



ご静聴ありがとうございました

続編はこちら！